

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年12月11日

計画の名称	富士山の魅力を発揮した快適なまちづくり												
計画の期間	平成31年度 ~ 令和05年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	富士宮市												
計画の目標	拠点となる施設や観光施設へのアクセスの向上を図るとともに、生活道路や市街地に流入している通過交通を計画路線へ転換させることで、渋滞緩和や安全安心な道路空間の確保を図る。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	2,485	A	2,485	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H31		H35
1	計画に位置づけられた路線の交通量の増加 交通量の増加率 (各路線の増加した交通量の総台数 / 現況交通量の総台数) × 100 = 交通量増加率(%)	0%	0%	20%
2	拠点となる施設や観光施設への移動時間の短縮 移動短縮率 (各路線の移動短縮時間の総和 / 現況移動時間の総和) × 100 = 移動短縮率(%)	0%	0%	20%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H31	R02	R03	R04	R05				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
道路事業	A01-001	道路	一般	富士宮市	直接	富士宮市	市町村道	改築	2級市道平山見返線	現道拡幅 L=0.69km	富士宮市						98	-		
	A01-002	道路	一般	富士宮市	直接	富士宮市	市町村道	改築	1級市道出水新梨線ほか1路線	現道拡幅 L=1.3km	富士宮市							780	-	
	A01-003	街路	一般	富士宮市	直接	富士宮市	S街路	新設	都市計画道路田中青木線	新設道路 L=0.28km	富士宮市							950	-	
	A01-004	道路	一般	富士宮市	直接	富士宮市	市町村道	改築	2級市道下川原下高原線	現道拡幅 L=0.3km	富士宮市							172	-	
	A01-005	道路	一般	富士宮市	直接	富士宮市	市町村道	改築	2級市道西山安居山線	現道拡幅 L=0.3km	富士宮市							259	-	
	A01-006	道路	一般	富士宮市	直接	富士宮市	市町村道	改築	2級市道黒田貫戸線	現道拡幅 L=0.7km	富士宮市							226	-	
												小計						2,485		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
富士宮市社会資本総合整備計画等事業評価委員会（道路・都市公園） 学識経験者 日本大学理工学部土木工学科教授	令和6年12月
	公表の方法 富士宮市ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業路線6路線のうち2路線の整備を完了した。 ・2級市道下川原下高原線の整備完了により、車どうしのすれ違いが円滑化されており、道路ネットワークの強化及び安全安心な道路空間の確保が図られた。 ・2級市道平山見返線の整備完了により、国道139号、県道富士富士宮線、県道清水富士宮線のアクセシビリティが向上したことで、観光拠点間の移動時間の短縮が図られた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・観光道路として、拠点となる箇所への移動距離が短縮された。 ・観光施設間及び拠点箇所への移動時間の短縮が図られた。 ・2級市道平山見返線の整備完了により円滑に安全に走行できるようになった。 ・2級市道平山見返線の整備完了後、観光拠点である田貫湖及び朝霧高原周辺の観光利用者が増加傾向にあり、両施設を結ぶ当該路線のアクセシビリティ向上が寄与したものと考えられる。
特記事項（今後の方針等）	
<p>本計画の期間内に完了できなかった事業箇所については、次期整備計画に位置付け、継続して用地取得や改良工事を推進し、移動時間の短縮、渋滞緩和や安全安心な道路空間の確保を図る。</p>	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	計画に位置づけられた路線の交通量の増加		
	最終目標値	20%	整備完了しなかった路線もあったが、目標値である20%は達成できた。整備完了した路線について、安全な道路空間の確保が図られたことにより交通量の増加が見受けられた。事業の進捗状況等により計画期間内に整備完了しなかった路線については、次期整備計画に移行して整備を推進し整備効果の発現を図る。
最終実績値	24%		
2	拠点となる施設や観光施設への移動時間の短縮		
	最終目標値	20%	目標値である20%は達成できなかったが、整備完了した路線について、交通の円滑化が図られ移動時間短縮の効果が見受けられた。事業の進捗状況等により計画期間内に整備完了しなかった路線については、次期整備計画に移行して整備を推進し整備効果の発現を図る。
最終実績値	12%		